

忍び寄るおとろえ
(年取るといふこと日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子
amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2016/10/25

右手親指がカビに侵されて水仕事に不自由になって2年たつ。昨年に医師に処方してもらった薬はなんの効き目もなかった。この夏に再度べつの抗真菌剤で治療を試みる。毎朝一錠30日を6ヶ月続ける。それでも効果が出なかったらこの指のまま使うしかない。料理、手仕事には不便なので、今度こそはの願がある。毎朝、儀式のように食後一錠を服用する。この年、忘れることが増えてきたので、間違いないよう薬の包装裏にマジックペンで毎日の日付を入れた。今朝も食後すぐに片付けに立とうと忘れそうだったが、日付を確認して、やおら錠剤を手にとって、やっぱり日付を入れたのは正解とほくそ笑んだ途端、注意が抜けて、その錠剤を床に落としてしまう。さらに床板が簧の子になっている隙間部分に転げ落ちた。縁の下までころがってしまったら取れない。ころがる音は聞こえなかった。一日分が無くなってしまおうと慌てて探す。夫は隣で大笑い。幸いにも隙間の下に板があってそこで留まっていた。どんなに小さなものでも口に入れるときはいただきますときちんと姿勢を正すことはだいじ。

12/3

恰幅のある図体の大きい女性が自転車に乗ってくる。大きな背中に隠れて姿が見えない小さな女の子が、大きな声で歌っていた。とても存在感のある親子だこと。

12/4

60歳ごろまでは1.2の視力があつたのに、徐々に落ちて1.0。昨今はなんと0.6にまで落ちている。12月に入って私鉄駅前通りも気忙しい感がある。前からから薄グリーンの薄手のダウンジャケットを羽織った40才前後の男性が歩いてくる。緑色の毛皮のような帽子をかぶっていてへーと珍しさに感心する。緑色が好きにちがいない。ところがなんと、すれ違うとき目にしたのは、中央が黒くなって、その周りが少し金髪、毛先にかけてグリーンに染まった髪だった。びっくりポン！世の中、楽しい驚きがあるものだ。

12/29

陽が照らない冷えた昼時前、小2ぐらいの双子と4歳位の男の子三人がお母さんといっしょに散歩中の一休みなのか、寺の奥の坂道の石の縁に腰かけて缶入り飲料を飲んでいる。長男らしき男の子が大きな声で、前を通り過ぎようとする私に向かって「おはようございます！」と声をかけてくれる。他の男の子たちもお兄ちゃんに協和するように「おはよー」「コンニチワ」。挨拶に答えながら「いい子ねー」とほめながら近づくと、お兄ちゃんが自分が飲んでいた缶を「一口どうぞ」と差し出す。「ありがとう」と笑って答えると、もう一度「どうぞ」とすすめるので「せっかくだから」受け取ると「一口」と付け加えて、私が飲むのを三人がじっと見つめる。長い髪の若くセンスの良いお母さんが私たちのやりとりをニコニコして見ている。甘く温かいミルクティーが体の中に一口落ち、飲み物とお母さんと子供たちの温かな心が冷えた体を一気に暖かくしてくれた。今年の最後で最高の事実さまからのプレゼントに「ありがとう」。

2017/1/25

細い裏通りの道を一人自分だけが歩いている。他に人はいない。よけることもなくスムーズに足が運ぶ。少しカーブしたところに差し掛かると左側の生垣のそばでおじいさんが短い箒と塵取りをもって朝の掃除をしている。すると前から犬に引かれたおばあさんがやってきた。同時に男性が乗った自転車と四人が横並びになって細い道は一瞬ふさがった。このような偶然は、ずっと楽に歩ける道はないよと注意を喚起する事実からのメッセージなのか、不思議な偶然の場面。事故のニュースが絶えないが、こんな風な偶然が起きているのかもしれない。

1/25

バス、トラックも行き交う大通りには人道がない場所がある。肩すれすれに大きな車が後ろから追い越していく。そんな通りは早めに抜けて左に曲がろうとすると、濃いピンク色の大きなバスがすれすれに後ろから来て、左のウィンカーを点滅して止まった。あれ、こんなところにバス停なかったけど…。曲がり角で待っていた女性が二人、子供二人がバスに乗りこむのを見送って立っている。すぐに体の不自由な子供を迎えるバスと気づき、お母さん二人の後ろを「すみません」と言って通り過ぎようとする、お母さんたちは「あ、ごめんなさい」「ごめんなさい」と頭を2度も下げて、狭い場所を除けようとされた。その慎ましい姿から子供さんを育てるのにどれだけ世間に気遣ってご苦労されたかが受け取れ胸が痛くなった。


4/23

宅配便クロネコのトラックの後ろで長身の男性が、七つ道具が入っていきそうな黒いがっちりとしたポシェットをガンベルトのように腰にぴしっと付け、いざ決闘に向かう様子で液体のボトルが詰まった大きな段ボールを車内からこれからどこかに運ぶのか、カートに重そうにドンと置いた。置いた拍子に段ボールの重さで体が前のめりになる。さらに荷物を載せてカートで配達先まで運び、荷を持ち上げ届けて降ろすのだろう。体力をぎりぎりに使って働く姿は頼もしく、美しい。「おつかれさま」。

4/24

温かくなって少し薄着になった。でも背中がときどき薄寒いのは若い頃にはなかった体感。真冬にはウールのベストが欠かせず、背中を温めるのが習慣になってしまった。義姉にもらった和服仕立ての薄手のベストを羽織るとこの時期ちょうどいい。前開きでボタンが付いていないので、グリーン小さなプラスチックのクリップで留める。水仕事で脱いだときはクリップを失くさないようベストの襟元につけてチェックする。ところが脱いだり羽織ったりしているうちに、ベストに付いている箒のクリップがどこを探してもないので、別の赤いクリップで留める。昼食後、洗面所の鏡を見るとなんと緑と赤のクリップ2つが襟に付いている。物がなくなるのではなく、見えても記憶に入らないときが出てきたにちがいない。見る観察チェックも100%完璧とはいかないのが自然とあるがままだに受け入れたいが…。

(千葉県市川市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)